

令和2年度(2020年度) 長野県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果について

学びの改革支援課

1 受検者数 ()内は前年度比較

- ・ 受検者総数 10,466人(-648人)
- ・ 全日制 10,162人(-650人)、定時制 131人(+5人)、多部制 173人(-3人)

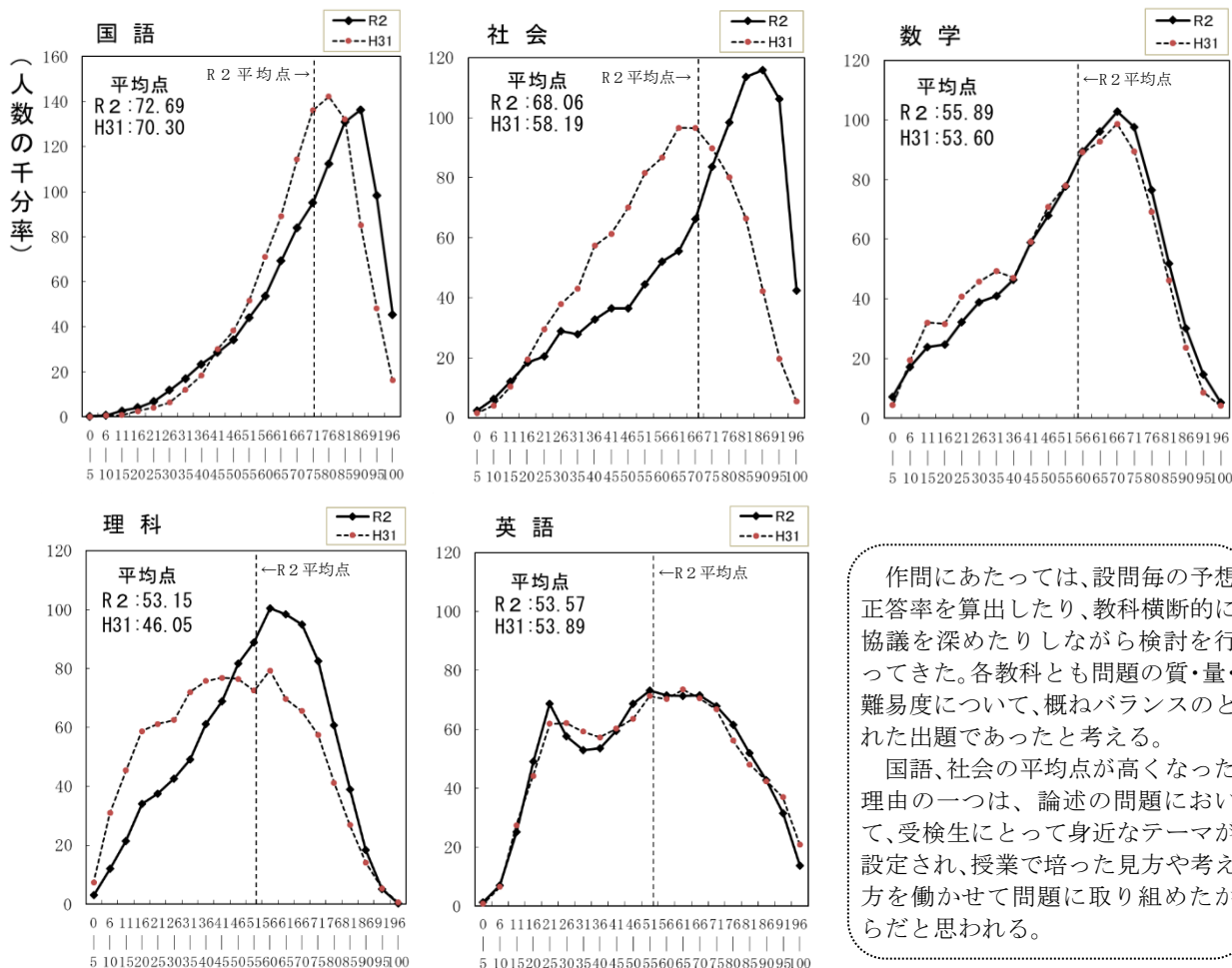
2 教科別結果

()内は前年度数値と増減

	国語	社会	数学	理科	英語
平均点	72.7 (70.3, +2.4)	68.1 (58.2, +9.9)	55.9 (53.6, +2.3)	53.2 (46.1, +7.1)	53.6 (53.9, -0.3)
100点の人数	80 (30)	114 (6)	15 (12)	0 (1)	18 (33)
0点の人数	0 (0)	4 (3)	8 (5)	5 (6)	2 (3)
標準偏差*1	18.0 (15.4)	22.6 (19.7)	21.0 (21.2)	19.5 (21.2)	22.9 (23.1)
変動係数*2	0.25 (0.22)	0.33 (0.34)	0.38 (0.40)	0.37 (0.46)	0.43 (0.43)

*1:数値の分布の散らばり具合(ばらつき)を表すもの。標準偏差が大きいと、平均値のまわりの数値の分布の散らばりが大きい。
*2:平均値に対して標準偏差がどの程度の比率になるかを示すために、標準偏差を平均値で割ったもの。平均値が異なっても散らばり具合を比較できるように補正した値。

3 教科別得点分布グラフ



4 結果の考察と授業改善に向けた取組

- 今回出題した問題の中から、自らの考えを明確にして記述させることで、広範な思考力・判断力・表現力をみた社会の問題（問3Ⅲ(4)）について、結果を考察した。

【問題(抜粋)】 資料から読み取れること等を手がかりにして、「中学生を含めた地域住民が、豊富な知識や経験、技能をもっている高齢者と力を合わせて、よりよい地域をつくっていくために、自分の住むまち(地域)では、どのような活動が考えられるか」ということについて、考えられる課題とその解決策を考察、構想し、表現しなさい。

〔考察〕・約64%の受検者が、正答している。授業で、社会にみられる課題を社会科の見方や考え方で捉え直す力の育成につながる学習が行われていると推測される。

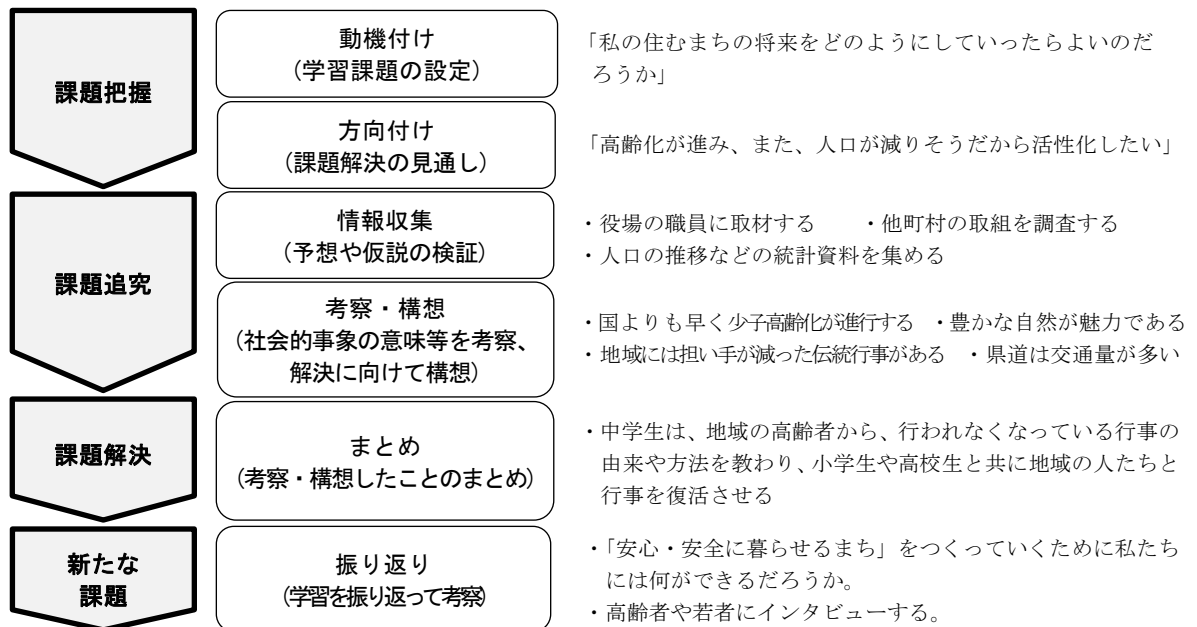
・無答は4.4%(前年度より3.9%減)で、多くの受検生が問題に向き合い記述しようとした。

〔授業改善に向けて〕

探究的な学びによる課題解決型の学習を

生徒自らが抱く「問い」を大切にしたい。そして、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想し、表現できることを目指したい。

【探究的な学習展開の例】



5 学力検査問題に対する外部評価者・中学校からのご意見

〔成果〕

- ・知識・技能だけをみる問題から、活用能力を問う内容が多く盛り込まれる傾向にあり、今後も継続してほしい。
- ・授業改善に向けたメッセージを問題から強く感じ、授業改善が進んでいると感じる。
- ・どの教科においても、育成を目指す資質・能力が意識された検査問題になっていると感じた。
- ・生活に密着した文脈の下、実生活と関連付けられた出題であり、身近に感じられる点がとても良い。

〔課題〕

- ・教科によっては問題文の量が多く、読み取るだけで時間を使ってしまう。教科の見方・考え方をはたらかせて深く考える時間を確保してほしい。

6 今後の対応について

- ・新学習指導要領を意識しながら、知識・技能とともに思考力・判断力・表現力等の学力が総合的にみられる問題となるよう、問題数、文字数等のバランスに一層配慮しながら、引き続き工夫する。
- ・問いに対して自ら考え、考えたことを表現する力の育成に向けた授業改善が進んでいると考えられ、引き続き生徒が抱く「問い」をもとに、対話を繰り返しながら追究していく学びをすすめていく。